

第 66 回 国連女性の地位委員会 インターン報告書



2022 年
認定 NPO 法人日本 BPW 連合会

目 次

ご挨拶 日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ	2
第 19 回 CSW インターン派遣事業について	3
インターン報告 CSW66 インターン 奥山千波	4
第 66 回国連女性の地位委員会（CSW66）報告	9
参加会員の感想	13
2023 年 CSW67 インターン派遣募集要項	16

出典：CSW66(2022), 14 Mar. 2022, <<https://www.unwomen.org/en/csw/csw66-2022>>（ロゴ・フライヤー等）

2022 年の第 66 回国連女性の地位委員会 The Commission on the Status of Women(CSW66)は、2022 年 3 月 14 日から 25 日まで、開催された。今年も、新型コロナウイルス感染症により、ニューヨーク国連本部で対面とオンラインによるハイブリッド形式で行われた。

国連 NGO である IFBPW の傘下団体として日本 BPW 連合会は、毎年若い女性をインターンとして CSW に派遣しており、今年で 19 年目を迎えた。



CSW は国連の会議なのだが、毎年この会議に合わせて、何千人もの NGO がニューヨークに参集し、国連の内外で、ジェンダー平等実現に向けた様々なイベントを開催した。

今年は、国連でさえハイブリッド開催なので、ニューヨークに行くことができない世界中の NGO に向けて、ネット上で様々なイベントが開催された。

今年は奥山千波さんをインターンと選定して、各国政府が主催するサイド・イベント、NGO が主催するパラレル・イベントにリモートで参加していただくことになった。

奥山さんは、留学先のマルタから様々なサイド・イベントとパラレル・イベントに参加された。報告書を読むと、奥山さんがイベントを通じて、多くの示唆を得られたことが伺え、大変うれしい。是非、皆様には、奥山さんの報告を読んでもらいたい。奥山さんの今後のご活躍をお祈りする。

最後に、このインターン派遣事業の責任者を務めた中山由美子副理事長とプロジェクトチームの林智意組織委員長、二ノ宮寛子ヤング委員長、他メンバーに感謝する。

第19回 CSW インターン派遣事業について

CSW インターン派遣事業プロジェクトリーダー
日本 BPW 連合会 副理事長 中山由美子

◆インターン応募者について

2021 年 8 月時点で csw2021@bpw-japan.jp（アドレスは毎年変更）宛に問い合わせがあり、対応した。その時点で CSW66 開催の形式が未確定だったため、途中、適宜情報を応募者に送付し、結果的に CSW66 がオンライン実施確定になった時点で応募書類の提出を依頼し、2022 年 1 月 18 日に受け取った。

応募書類を受領した時点で、プロジェクトメンバー内で協議し、2022 年 2 月 2 日 20:00 から 40 分程度の Zoom 面談を行った。

面談参加者：（敬称略 順不同）

奥山千波 +

BPW メンバー（林智意 ニノ宮 布柴 林乙羽 藤田典子 佐藤 中山）

質問内容：

英語で

- 申請書に書かれていた内容について、かいつまんで英語で説明してもらう
- BPW について、知っていること、調べたことについて話してもらう
- BPW で何がしたいかを問う
- CSW 参加経験を今後どのように活かしていきたいかを問う

そのあと日本語で、今後対応して欲しいことを説明

- 報告書の作成
- 年内の NWECC での企画発表
- BPW が企画するイベント（報告会・企業との意見交換会・各地の BPW 活動）への参加
- 将来ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加

面接終了後に奥山さんには待機室で待ってもらい、面談参加メンバーと協議した結果、英語力、理解力、表現力などに問題がなく、高い評価だったので、待機室から戻った本人に合格を伝えた。奥山さんは今後 6 月頃に帰国し、再度メキシコへ渡航し、就職インターンを経験するという予定も確認した。

【参加目的・背景】

この度は、第66回国連女性の地位委員会（CSW66）のインターンに参加させていただき、ありがとうございました。私が国連「女性の地位委員会」インターン派遣事業に応募した主な動機は2点あります。

1点目は、国際問題・国連問題・女性問題について多方面から情報を吸収し、知見を広げることです。現在は交換留学中で、マルタ大学にてジェンダー・セクシュアリティ学を専攻していますが、自分の女性問題に関する知識の浅さと女性問題の複雑さを痛感し、それらが学びの意欲になっています。CSW66の優先テーマは「気候変動と環境・災害リスク削減に関する政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成」ということで、現在学んでいるものとは異なる角度から最新の女性問題について触れることを期待しました。2点目は、BPWメンバーの方々及び世界の女性団体の方々と交流したりお話を聞いたりすることで、日本にとどまらない世界基準の活動や動向に加え、国際的な感覚を養うことができると考えたからです。



【参加したサイド・イベント&パラレル・イベント一覧】

日付	タイトル	主催者
3/5	CSW66 Youth Forum - Gender equality in the context of the climate crisis (day 2)	National Gender Youth Activists, Action Coalition Youth Leaders & Adolescent Girls, UN Women, Plan International, Women Deliver, and SheLeads
3/14	Promoting women's and girls' participation and leadership in disaster risk reduction and financing	Food and Agriculture Organization (FAO), African Risk Capacity (ARC)
	The Forgotten Voices – The Impact of Climate Change on Violence against Women	Iceland, UN Women National Committee Iceland
3/15	Women, Youth, Peace & Security Conversation Circle	NGO CSW/NY
	Building a common front against the digital dimension of violence against women	Council of Europe, Independent Expert Mechanisms on the Elimination of Discrimination and Violence against Women Platform (EDVAW Platform)
	Anti-Racism Conversation Circle	NGO CSW/NY
3/16	Women in Migration Conversation Circle	NGO CSW/NY
	Violence Against Women Conversation Circle	NGO CSW/NY
3/17	Information, voice, power: the role of education and girl-generated data in enabling Girl-led action on Climate Change	Food and Agriculture Organization (FAO), The World Association of Girl Guides and Girl Scouts (WAGGGS)
	Beyond COVID-19: Advancing Gender-Responsive Policies on Climate, Cate and Jobs for a Sustainable and Equal Future	UN WOMEN
	Future of Education Conversation Circle	NGO CSW/NY
	To Measure is to Know and Act: New Data For Better COVID-Response Solutions for Women Entrepreneurs	World Bank Women Entrepreneurs Finance Program (World Bank)

3/18	Accountability for all women and girls: Delivering on the ICPD and Beijing Agendas	Argentina, Denmark, France, Mexico, United Nations Population Fund (UNFPA), International Planned Parenthood Federation (IPPF)
	Investing in Women entrepreneurs to tackle climate change	UN Women's Entrepreneurship Accelerator initiative, a multi-partnership global initiative of ILO, ITC, ITU, UNDP, UN Women, UNGC and Mary Kay Global
	Rural Economic Empowerment & Financial Independence: Post Covid-19	Canada, Associated Country Women of the World
3/21	Institutional Racism: What does it look like?	NGO CSW/NY
	Climate finance: catalyst for gender equality and women's empowerment in the forest sector	UNDP
	LGBTQI+ Conversation Circle	NGO CSW/NY
3/22	Human rights and gender equality in the context of climate change, the environment and disaster risk reduction	Fiji, Morocco, Slovenia, the Marshall Islands, United Nations Environment Programme (UNEP), United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR), Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights (OHCHR)
	Voces Indígenas de Centroamérica: Experiencias Rurales en CSW (Indigenous Voices from Central America: Rural Experiences at CSW)	The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO), Associated Country Women of the World
3/23	EU-LAC Women as Key Actors in Climate Action and Disaster Prevention - Launching of the EU-LAC Women's International Network	EU-LAC International Foundation, UNDP Bureau for Latin America and the Caribbean of the United Nations Development Programme
	Rising Together: Empowering women and girls to be at the center of climate resiliency	United Nations Federal Credit Union (UNFCU)
	Voices from the Pacific: highlighting the powerful role of women's action and leadership in disaster risk reduction and climate change adaptation and resilience building	Australia, UNDRR
3/24	Climate Change: Challenges and Synergies for Addressing GBV in the Arab region	United Nations Population Fund (UNFPA), ASRO
	Women, Business and the Law 2022: Accelerating Equality to Build Women's Resilience	The World Bank
	Equal Work, Equal Pay: Reducing the Gender Pay Gap	Civil Society Unit, UN Department of Global Communications, DGC Civil Society Youth Representatives Steering Committee
3/25	Inclusive, gender responsive and climate-informed conflict prevention and peacebuilding: opportunities and lessons from UN field presences	United Nations Department of Political Affairs (DPPA), UN Climate Security Mechanism
	Green, gender responsive and just development agendas: challenges and opportunities in LAC	UNDP, UNEP

【印象に残ったイベント】

① “Empowering women and girls to be at the center of climate resiliency”



イベント内容

サイド・イベントでは、各セクター間のパートナーシップ強化と女性リーダーの育成が重要課題として掲げられました。さらに、パネルディスカッションでは UNFCU Foundation と共に、UNICEF や BOMA Project、Trickle Up の登壇者が、災害後どのように女性や少女を中心に置いた短期的及び長期的な戦略を打ち出し、プロジェクトを実施するのかについて意見交換しました。

感想

パネルディスカッションの中で特に印象に残っているのは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて取り組む際に、“Intersectionality（交差性）”に特に注意を払う必要があるということです。交差性とはジェンダーや人種、階級など様々な差別が重なり、更なる抑圧や障害が発生する状況を指します。パネリストも言及していましたが、この交差性を考慮した上で戦略の決定、プロジェクトの実施をしなければ、特定のエスニック・グループの女性や障害のある女性など複数の脆弱性を持ち合わせた場合、十分にプロジェクトの利点が機能しなくなってしまいます。女性リーダーの育成においても、交差性からくる自尊心と自信の喪失がプログラムの参加への大きな障壁になってしまう可能性もあると感じました。

② “Investing in Women entrepreneurs to tackle climate change”

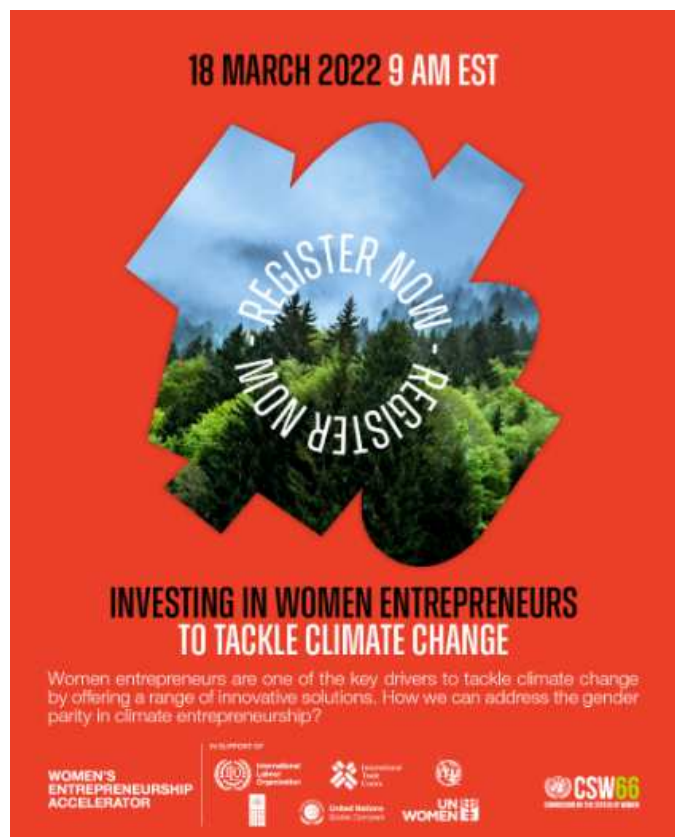
イベント内容

このサイド・イベントでは、気候変動に関する課題に取り組んでいる女性起業家や専門家が招かれ、3 セクションに分かれてディスカッションが行われました。気候変動に取り組むために鍵となる推進力のひとつとしての起業家精神の重要性や、革新的な解決策を生み出すために必要とされる女性起業家の需要に焦点が当てられました。

感想

気候変動や環境問題に取り組む女性起業家とビジネスの可能性を強く感じる内容でした。イベントの中で、WEA（Women's Entrepreneurship Accelerator）が紹介されましたが、この取り組みがとても興味深かったです。WEA は ILO や UNDP といった国際機関とパートナーシップを結び、2030 年までに 500 万人の女性起業家をエンパワーすることを目指して様々なプログラムを提供しています。WEA は修了証明書付き無料オンラインプログラム

も提供しており、女性がプログラムに参加できない原因として挙げられる経済的な負担にも対処しています。ただ、女性起業家を育てて終わりではなく、持続的な経営のためにどのように継続的なサポートを行っていくのかにも着目する必要があると思いました。



③ “Anti-Racism Conversation Circle”

イベント内容

Conversation Circlesの一環として開催された本イベントの最大の特徴は、世界中からアクセスしている参加者と、それぞれのテーマで議論を交わす機会が設けられていることです。主催者から背景知識について説明を受けた後に、ブレイクアウトセッションの時間が25分間ありました。また、Anti-Racism

Conversation Circleでは、レイシズムの問題性の把握や解決策を導く

ための戦略を考えることなどが目的として設定されていました。Jamboardを使用して参加者の意見が見られるようになっていたのが印象的です。



CONVERSATION CIRCLES SCHEDULE	
Sexual & Reproductive Health and Rights 14 March 10-11:30AM EDT	Economic Justice & Rights 17 March 9-10:30 AM EDT
Feminist & Youth Movements & Leadership 14 March 4-5:30PM EDT	Future of Education 17 March 4-5:30PM EDT
Women, Youth, Peace & Security 15 March 10-11:30AM EDT	Indigenous Women 18 March 9-10:30AM EDT
Anti-Racism 15 March 4-5:30PM EDT	LGBTQI+ 21 March 12-1:30PM EDT
Violence Against Women 16 March 4-5:30PM EDT	Building Greener Across Generations 21 March 9-10:30AM EDT
Women in Migration 16 March 11-12:30PM EDT	

Conversation Circlesのスケジュール

感想

それぞれの国や地域、もしくは個人間で起こっている国際的な問題を議論したり、意見交換したりする場の必要性を痛感しました。私個人の経験で言うと、今まで日本で人種差別を受けたことは全くと言って良いほどありません。その理由を考えたときに、私が日本人の父親と母親を持ち、日本でずっと暮らしてきたからであると思います。そのため、人種差別という言葉聞いた時に、その重要性は頭の中で分かっているつもりでもどこか他人事として捉えてしまっている自分に気が付きました。だからこそ、世界中から集まった参加者との意見交換は私の視野を広げ、大きな刺激となったのだと思います。「人種差別に対処もしくは反人種差別を推進するために、個人としてどのような貢献ができますか」という問いかけで、多くの参加者が人種差別に対して声を上げ続け、行動に移すことの重要性を強調していました。”Speak Up & Take Action”というメッセージは人種差別に留まらず、女性問題全般においてキーワードとなる言葉だと感じます。また、ディスカッションを通じて、自分の考えを持ちつつも、他人の意見を柔軟に受け入れることが国際的な場で求められていると感じました。



Anti-Racism Conversation Circleで使用された Jamboard

④ “Beyond COVID-19: Advancing Gender-Responsive Policies on Climate, Care and Jobs for a Sustainable and Equal Future”

イベント内容

国際的な現場で活躍されている女性リーダーが集い、気候変動や災害、コロナパンデミックの側面から、ジェンダー平等が志向された政策に焦点を当てた意見交換が行われました。主催はUN WOMENで、発行されている”Beyond COVID-19: A Feminist Plan for Sustainability and Social Justice”と”the Secretary-General’s CSW66 priority and review theme reports”を基に話し合いが進められました。

感想

国際機関や市民社会において、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に従事されてきたパネリストの方々のお話を聞けたことは光栄でした。日本では政治分野における女性リーダーの割合が低いことが問題として挙げられることが多々ありますが、これは世界的にみても同じことが言えると思います。イベントを通して、企業、政府、その他あらゆる組織の意思決定における女性のリーダーシップの必要性を再確認するとともに、政策立案のためにより多く、正確なデータ収集とジェンダー分析が重要であるということに気づかされました。以前、ジェンダー主流化に関する授業で政策立案を行うグループワークをしたことがあるのですが、特定の分野においてどのような不平等が生じているのか、情報収集で考慮しなければならないことは何か、分析方法はどうするのか、など実際に考えてみた時にその複雑さと難しさを味わいました。

【全体の感想】

本年度もオンラインでの開催となりましたが、非常に学びが多く、実りある2週間となりました。期間中は時差と大学の授業スケジュールを考慮しつつも、1日に約2~3つのイベントに参加させていただきました。インターン中を振り返ってみると、「気候変動や災害リスクから生じる課題の対応策やその意思決定に女性のリーダーが関わることがなぜ重要視されているのか」等の問いにひたすら向き合い、考え続けていたことに気づきました。



特に関心があった分野は、気候変動・災害リスクから生じる女性・少女に対する暴力とその対応についてです。以前はそれがどのように暴力へ影響を及ぼすのかあまり考えたことがありませんでしたが、様々なイベントを通して、気候変動→記録的な大雨や大規模な干ばつ等の災害が発生→農業や漁業に悪影響→収入が減り、生活が不安定になる→ストレスの矛先が女性や少女へと向けられ、暴力が増加、という一連の関係性が存在することを知り、コロナ禍で女性や少女に対する暴力が増加した背景に重なる部分があると感じました。

また、パネリストとして登壇したユースの方々からは、気候変動によって発生する様々な女性問題に対して、若い世代がもっと積極的に声を上げることの意義について、強いメッセージを受け取りました。まずは、今回のインターンを通して考えたことや学んだことを家族や友人など身近なところからでも共有し、受け取った側にも他人事と思わず問題意識を持ってもらえるようにすることが私の今後のミッションだと信じています。将来、日本に留まらず世界で通用する人材として女性問題に尽力するべく、現在学んでいるジェンダー問題に関してさらに専門性を高めるためにも海外大学院への進学を視野にいています。

第66回国連女性の地位委員会（CSW66）報告 COVID-19 パンデミックのもとでのオンライン（ハイブリッド）開催

日本 BPW 連合会 副理事長 布柴靖枝

第66回国連の女性の地位委員会は、3月14日から25日の日程でNYの国連本部で開催された。今年もCOVID-19パンデミックの影響で、人数制限がされたため、日本政府代表団は結成されず、ハイブリッド開催となった。また、同じく、NPO/NGO関係者によるサイド・イベントやパラレル・イベントもオンラインで実施された。

今回の優先テーマは、「気候変動、環境・災害リスク削減政策とプログラムにおけるジェンダー平等と全ての女性・女児のエンパワーメントの実現」で、レビューテーマは、CSW61の合意結論「変化する仕事の世界における女性の経済的エンパワーメント」であった。今回の議長は、南アフリカ共和国のMathu Joyiniさんが務めた。

今回のCSWは、2022年2月24日から始まったロシアのウクライナへの軍事侵攻という重苦しい事態の中で、安全保障理事会、総会における数々の緊急臨時会議と並行しての開催となった。国連事務総長のアントニオ・グテーレス氏も、就任期間中で最も深刻な事態であるということが語られ、一刻も早い解決に向けた各国の団結の重要が求められると、述べられた。

【合意結論】

優先テーマに従って、例年通り、前年秋に専門家により検討され、事前にとりまとめられた原案（ゼロDraft 18項目）をもとに検討が始められ、最終的には64項目まで拡大したものが最終合意文書として採択された。また、会期中の3月24日には、新たな課題として、「ジェンダー平等と持続可能な未来に向けたコロナ禍からの復興に向けて」というテーマでインタラクティブ討論がなされ、その内容が盛り込まれたことも特筆すべき点である。（パラグラフ29）COVID-19からの復興の中に、いかにジェンダー平等と持続可能な環境を盛り込み相乗効果をもたらすことが出来るのか、どのような政策が人々と地球へのケアへの促進するのかなどが議論された。

さらに、2025年に第4回世界女性大会の30周年を迎えるにあたり、どのように機会を有効なものにするかについても議論された。

【合意結論の要旨】まずは、北京宣言と行動綱領の完全かつ効果的で迅速な実施が、2030アジェンダの実施、並びに、ジェンダー平等および女性と女児のエンパワーメントの達成に極めて重要であることの再確認から始まり、64項目の内容で合意結論に至った。そして、あらゆるステークホルダーが取り組むべき課題として次のような内容が示された。

- 1) すでに採択されているジェンダー平等、女性・女児のエンパワーメントに関する基準、法規制の強化(13項目)

- 2) ジェンダーの視点を気候変動や環境・減災対策やプログラムに盛り込むこと(12項目)
- 3) ジェンダーに対応した予算の拡大(19項目)
- 4) ジェンダー統計と性別による統計の強化(3項目)
- 5) ジェンダーに対応した、公正な移行を促進すること(1項目)。すなわち、すべての女性の労働の権利と職場における権利を保護・促進し、平等なアクセスを確保すること。たとえば、持続可能なエネルギー、漁業、林業、観光業などすべての分野において、ディーセント・ワークと質の高い仕事を女性が得られるようにするなど。また、職業上の差別的な社会規範、ジェンダー・ステレオタイプ、暴力、セクシャル・ハラスメントから守り、すべての部門における正規・非正規労働の同一価値労働に対する同一賃金の確保、差別と権利侵害をなくし、労働の分野におけるすべての女性の安全を確保することなども明示された。

*詳細は、最終合意文書を参照のこと

CSW66 Agreed Conclusions_Advance unedited version_25
March 2022.pdf (unwomen.org)

◆CSW66 本会議日程◆

- 3月14日 開会式・閣僚級ラウンドテーブル
- 3月15日 閣僚級ラウンドテーブル・一般討論
- 3月16・17日 一般討論
- 3月18日 レビューテーマ：インタラクティブ討論

3月22日 一般討論・優先テーマのインターラクティブ討論
 3月24日 新たな課題(コロナ禍からの復興)
 3月25日午前 合意結論インフォーマル会議
 午後 ECOSOC 合意結論採択 閉会

【日本政府からのステートメント】

今年は、日本政府代表団が結成されなかったために野田聖子女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣(男女共同参画)が、一般討論・閣僚会議円卓会合において我が国の取組みについてビデオメッセージの形でステートメントを発表した。ステートメントの最後に「ジェンダー平等は、日本国政府の重要かつ揺るぎない、確固たる方針」と明言され、大変心強いステートメントであった。

日本政府の一般討論の骨子

- ・新型コロナウイルス感染症拡大はとりわけ女性・子ども、脆弱な状況にある人々がより多くの影響を受けた。
- ・気候変動で増大する気候災害リスクが増大しており、平時からあらゆる施策の中に、男女平等の視点を含めることが不可欠である。
- ・特に日本は東日本大震災の経験から、災害リスク削減の政策において男女共同参画の視点に立った取り組みを進めている。
- ・具体的には、防災に関する政策・方針決定過程と現場に女性の参画を拡大すること。
- ・避難所運営等に若年層を含めた女性が参画し、女性のニーズを反映し、性被害・性暴力の防止など、安心安全の確保を図ること。
- ・2015年の第3回国連防災世界会議の中で採択された「仙台防災枠組」の中に、女性の参画や能力構築が記載された。また、「世界津波の日(11月5日)」も日本政府が提案し、採択された。国連訓練調査研究所 UNITAR を通じて、津波防災に関する女性のリーダーシップ研修を実施している。
- ・気候変動や災害の影響を特に受けやすい女性と女兒に対する支援のために2.5百万ドルを拠出し、ウガンダ、ソマリア、モロッコの女性の能力強化を支援してきた。

◆サイド・イベント◆

国内の3 NGO 団体と日本政府国連代表部との共催事業として実施されてきた「サイド・イベント」も、昨年に引き続き、COVID-19の感染拡大のためオンラインで実施することになった。今回は3 NGO 団体のうち、国連 NGO 国内女性委員会が主な担当団体となって企画した。日本 BPW 連合会も国連 NGO 国内女性委員会に加盟し、役員も務めていることから BPW 役員も協力にあたった。



実施日 3月15日(火) 19:00-20:30

参加者 189(登録申込数:348)

テーマ エシカルな意識と行動が世界を変える
 ～環境問題へのあらゆる人の参画にむけて～

アジェンダ

冒頭、開会ビデオメッセージで、内閣総理大臣補佐官(女性活躍担当)森まさこ議員より、挨拶がなされた。次いで、パネルディスカッションは以下の通り実施された。

○モデレーター：紙谷雅子(学習院大学教授)

○パネリスト(4名)と発言テーマ

- ・末吉里花(一般社団法人日本エシカル協会代表理事、日本ユネスコ国内委員会広報大使)
 「エシカル消費と気候変動～100人の一歩が世界を変える～」
- ・大塚桃奈(上勝町ゼロ・ウェストセンタ
 'Why' 最高環境責任者)
 「2030年、ゼロ・ウェストに向けて～小さな町の大きな挑戦～」
- ・カール・リンドベリ氏(元ユネスコ・ハイレベルパネル ESD 特別顧問、スウェーデン・ウプサラ市市議会副議長)
 「幼稚園から大学まで～もっと推進しよう、持続可能な開発のための教育～」
- ・内川知美(JICA ガバナンス・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室長)
 「国際協力におけるジェンダー平等とエシカル消費～JICA キルギス一村一品プロジェクトの事例から」

概要

私たちを取り巻く環境は大きく変わりつつある。地球温暖化による気候変動は、世界各地に多くの自然災害をもたらし、無計画な開発は、森林資源を破壊し、水資源を枯渇させ、貧富の格差を増大させた。私たちの消費活動のありようが発展途上国の自然を破壊し、女兒・女性たちへの生活に大きな影響を与えている。これらの問題に対して、エシカル（倫理的）な視点から、環境・人権問題を考慮に入れた持続可能な社会づくりに向けたアクションが強く求められてきている。

これらの観点で、各パネリストが発言した。末吉氏は、私たちがモノを購入する時、人権と環境問題に配慮されてつくられたモノを正当な価格で購入することで、生産会社を変え、ひいては社会を変えていくことができるエシカル消費教育の重要性を訴えた。一人一人のエシカルな消費行動が、環境問題などのグローバルな課題解決にむけた大きな一歩につながると話された。

大塚氏は、ゼロ・ウェイスト宣言をだしている徳島県上勝町のごみ削減の取り組みが紹介した。上勝町では45種類に分別して実に80%のごみをリサイクルさせることに成功している。責任ある消費、ごみに関する情報の透明性、女性のエンパワーメントがその成功の秘訣であることを指摘した。リサイクルできない残りの20%を減らすためには、会社がそのような製品を作らないようにすることしかなく、そのためにも啓蒙活動と消費者の教育が重要であると話した。

リンドベリ氏は、学校教育の中に持続可能な教育(ESD)を取り入れていくことの重要性、とりわけクリティカルシンキングや、倫理的なモノの考え方を幼いころから身に付けていく教育が気候変動などの環境問題を改善していくためにも重要であること。また、SDGsのゴール5：ジェンダー平等の達成が、他の16のゴール達成の成功に導く秘訣になると話された。

内川氏は、JICAにおけるキルギスでの10年間にわたるOne Village One Product (OVOP)の活動を紹介した。倫理的な意識や行動が環境に優しい活動を通して女性の経済的エンパワーメントにつながることを示してくれる好事例であると話された。

以上のように、女兒・女性をエンパワーメントと、気候変動や環境問題の改善は相互に大き

く影響を与えることが確認できた。あらゆる世代の人たちが、日々の暮らしを通して身近に実践できるアクションとしての倫理的な消費と行動がひととき重要であること、そして、国・地方自治体・学校関係者などからのトップダウンの施策・対策・支援とNGO/NPOの草の根運動のボトムアップの活動があつてこそ、初めて、持続可能な社会の形成につながっていくことが確認された。

サイド・イベントに関わった関係者コメント

○布柴靖枝（連合会副理事長・東京クラブ）

今回は平松さんの遺言で、CSW66のサイド・イベント企画に関わることになった。気候変動と環境問題という大きなテーマに対して、あらゆる世代の人々が、日々の暮らしの中でできるエシカル消費は、女性・女兒へのエンパワーメントに大きく貢献することを伝えられるいい機会になったと思う。それぞれのスピーカーが限られた時間内にエッセンスをうまく盛り込んでくださったと思う。改めて日本人のプレゼン能力の高さに感心した。また、今回のスピーカーの大塚さんはまだ、20代前半の若手の女性である。しかし、すでにソニーの元会長平井一夫さんと肩を並べて受賞するほど、小さな町から世界に発信力をもって環境問題に取り組んでいる頼もしいヤング世代の女性である。高校の時にリーダーシップ研修やエシカル消費教育を受け、大学ではリベラルアーツとクリティカルシンキングを身に付け、様々なことにチャレンジしてきた。大塚さんのようなヤング女性が活躍する時代が来たことを喜ばしく思うと共に、正にリンドベリ氏が話されたESD（持続可能な開発のための教育）の成果がこのような形で開花していくいいモデルであると感じた。

また、サイド・イベントは、日本政府代表部と女性3NGO団体との共催で開催されるものであるが、外務省はじめ、他団体との粘り強い交渉を経て作り上げられている。CSWのサイド・イベントは、トップダウンで動く政府と、ボトムアップで動くNGOの協働作品である。多様な意見のシャワーを沢山浴びた分、いいものができたと実感することが出来た。

○林智意（連合会組織委員長・東京クラブ会長）
～サイド・イベントの舞台裏で感じたこと～

サイド・イベントのロジ担に携わるようになって7年目となりました。

最初の4年は現地NYでの開催にあたり、常に起こる不測の事態の対応で、イベント開催までほぼ寝ずの作業が毎年繰り返されました。

しかし、コロナ禍でのこの3年は、突然の中止から始まり、バーチャル開催の中での2年続けての実施と、まったく違う環境でのイベントとなりました。ロジ担としての作業量は1/5。通信環境さえ整えれば大きな問題は起きません。ですが、達成感かというと……NYで毎年味わった熱いエネルギーは感じられませんでした。運

営上ウェビナー開催という方法を取るしかありませんでしたが、そうすると参加者の顔は見えません。慣れている人はチャットで感想を書き込み、感動を伝えてくれますが、そこまでなのです。インターネットの普及で世界がグッと縮みました。その一方で、目に見えない方の心に響いたり感動に触れたりする距離を縮めることまでは、まだまだ難しいのですが、先人の切り開いてきた道を広げるために、あきらめず進むのみです。

(2021 年度会報記事一部再録)

NGO スケジュール



NGO CSW/NY EVENTS

Click on the event title to register for each event.

KEY:

Conversation Circle

Regional Caucus

Civil Society Briefing

All event times are in EDT timezone

March 2022

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
13 NY Consultation Day 9:45am - 1pm	14 Orientation Session 8-9:30am Sexual & Reproductive Health and Rights 10-11:30am Feminist & Youth Movements & Leadership 4-5:30pm	15 Advocacy Training Session 8-9:30am Briefing on EDVAW Platform 8-10am Women & Youth, Peace, & Security 10-11:30am Briefing with UN Women 1:15 - 2:30pm Anti-Racism 4-5:30pm Briefing on EDVAW Platform 4-6pm	16 Africa 7-8am Women in Migration 11am-12:30pm Violence Against Women 4-5:30pm African Dance Party 7-8pm	17 Arab States/MENA 7-8am Economic Justice and Rights 9-10:30am North America & Europe 10:30-11:30am Future of Education 4-5:30pm	18 Youth Morning Briefing 8-9am Indigenous Women 9-10:30am Latin America & the Caribbean 6-7pm	19 Asia/Pacific 2-3am
20	21 Institutional Racism 8-9am Building Greener Across Generations: Intergenerational Conversation Circle on Climate 9-10:30am LGBTQ+ 12-1:30pm	22	23 Asia/Pacific 2-3am Briefing on the CSW66 Negotiations 8-9am North America and Europe 10-11am YLYP Mentorship Event 12-1:15pm	24 Africa 7-8am	25 Arab States/MENA 7-8am Latin America & the Caribbean 5-6pm	26

Calendar subject to change

上記は NGOCSW の主催によるイベントの抜粋された表で、他にもパラレル・イベント（NGO 主催）とサイド・イベント（政府との共催によるもの）は合わせて数百ほど開催されていた。今回参加したインターンや日本 BPW 連合会会員を含め、世界中からオンラインで CSW66 に参加する人々は、興味のあるテーマのイベントに事前申込をし、イベントの直前になると登録したメールアドレスにお知らせを受け取り、忘れずに参加できるようになっていた。各イベントにより Zoom のブレイクアウトルームを使用した参加者同士の交流ができるものや、ウェビナー形式で視聴し、事前申込の際に質問したものが採用されると、その質問者のビデオがオンになって直接質問できる形式のものなど、スタイルは多岐にわたっていたが、それぞれの時間はほぼ1時間から2時間程度で、モデレーター1名と数名のスピーカーが登壇し、質疑応答が最後に行われる形式が多かった。3年前までの NY での開催方法を思い起こさせる様な工夫がなされていた。

参加会員の感想

CSW66 についての情報提供を希望する日本 BPW 連合会の会員を事前に募り、オンラインでの CSW への参加申込方法の案内を始め、連合会側でキャッチした情報等について発信した。以前から CSW インターンと引率者や役員の間では会期中に現地と後方支援の日本とで連絡を取り合うことが行われていた。しかし、今年度は昨年度に続きオンライン参加であることと、インターンが1名で、しかも海外からの参加ということもあり、一緒に様々なイベントへ参加している BPW の会員がいることを知り、情報交換をして孤独感を感じずに会期中を過ごすことができることを願って SNS のグループを作成した。インターン1名と会員12名の合計13名がグループに参加し、どんなイベントに参加するかという情報だけでなく、現在参加中のイベントについてもコメントを寄せ、交流することができた。ここには数名の記名による参加の感想と、今回の一連の取り組みがどの様にそのメンバーに捉えられていたかを知るために事後アンケートを取った際の自由記述欄のコメントを掲載する。アンケートの回答結果を見ると、会期中に活発に CSW に参加できたメンバーとそうでなかったメンバーがいたが、アンケート実施により、事後に様々な意見を聞くことができた。これらの意見を集約し、派遣側としてもそれらを今後に活かして行きたい。

◆ CSW66 のイベントに参加して

東京クラブ 林智意

3月16日の夜、帰宅後、イヤホンをつけて iPad をかたわらに置きながらの参加であった。
“The Road to Youth-Inclusive Implementation of WPS-HA Compact Actions” by UN Women, Generation Equality, and Action Coalition Leaders.
コロナ前の CSW62 くらいから、若者向けのプログラムやトレーニングの紹介イベントが非常に多く開催されるようになった。日本の政府代表団にも Youth 代表を1名選出して送りこめるようになったのもこのころからである。

このイベントの「女性、平和と安全および人道的行動（WPS-HA）コンパクト」とは、2021年7月にパリの世代平等フォーラムで発表されたものである。コンパクトは世代を超えた包括的な世界的運動であり、署名者は積極的にこれまでの平和、安全、人道的プロセスの見直しを図り、難民、その他強制的に避難させられた無国籍の女性、少女を体系的に支えるために5年間（2022-2026）にわたる献身的な行動を呼びかけている。このような活動があることは全く知らなかった。似たような活動として、企業経営者に向けた WEPs がある。

世代を超えて、多くの女性は、平和とジェンダーの平等のために積極的に活動しているが、ジェンダーの固定観念や異なった平和と安全の考え方によってその活動は阻まれている現実をま

ずは世界中に知らせようと、そのために今、私たちに何ができるかを討論した。

また、一般的に15~29歳の女性と男性の若者は現在世界人口の約25%を占めているそうだが、平和で安全である環境で生活しているのかといったら、決してそうではない。特に若い女性においては教育、就労、婚姻などにおいて大きな課題を抱えている状況である。

発言者は事前に決まっていたようで、画面に顔を出していたのは、すでに活動をしている女性たちであった。みなウクライナの人々に心を寄せるべく、画面共有の資料は青と黄色に色を絞って作成されたものだった。自分の気持ちを素直に、さりげなく表現する方法は非常に学ぶものがあつた。

◆ CSW にオンライン参加をして

東京クラブ 柄澤(青柳)優子

(2021年度会報記事再録)

CSW には前々から興味があつたが、仕事をしているとなかなか現地へ行つての参加は難しい。今回はオンラインということで参加ができるかもしれないという期待もあり、登録をした。私が参加したのは日本のサイド・イベント、“Women in Migration Conversation Circle”、“African Dance Party”である。“Asia Pacific Caucus”は残念ながら2時間待機したが、テクニカル問題

で実施できなかったと終了時間後に連絡があった。Zoomだと予期せぬこともあるのだと思った次第である。個人的には日本のサイド・イベントが一番分かり易く、いいイベントだった。恥ずかしながらスピーカーの大塚さんのいらっしゃる四国の上勝町のことは存じ上げてなく、終了後、いろいろ調べて勉強させていただいた。

また、“African Dance Party”はZoomならではの、参加者の顔が見えて一緒に踊れてとても楽しかった。自分の英語力の無さに情けなくなりながらも、このような機会に参加できたことはとても刺激であった。オンラインでの開催は日本の地方からも参加できて本当にありがたかった。

開催中に地震があったり、いろいろハプニング続きであったり、また仕事にも追われて思うように参加ができなかったが、また今後このようにオンラインでも参加ができるようであれば是非とも参加したい。



(写真は画像処理しています)

◆ 長年の願いの叶った CSW 参加

札幌クラブ ニノ宮寛子

このCSW インターン派遣事業が始まって以来、初めてオンライン参加になった昨年度は、都合により多くの参加が叶わなかった。やっと申し込んだイベントが直前キャンセルになるという不運も重なり、無念な気持ちの残るCSW65であった。

しかし今年度はスケジュールが合い、引き続きオンラインでの開催となったため、可能な限り参加を試みた。ニューヨークの時間帯に合わせたものが多い印象であった昨年度よりも、今年度は各地域の時間帯で参加できるイベントが多くなっていき、使いづらかった昨年度のアプリアも今回は採用されず、ウェブサイト上へ直接イベントが表示され、それらへの申し込みもフォームを使用して簡単に行うことができた。2度目のオンライン開催は、運営方法もかなり改善されたと感じた。イベントの直前には自動的にリマインダーも送信され、たくさん申し込んでも忘れずに参加できるようになっていることは、時差のある場所で仕事と生活がある身としてはありがたかった。

結果的に参加が実現したのは、グテーレス事務局長のタウンミーティング、アフリカンダンスパーティ、“Our Ethical Consciousness and Actions Change the World: Towards the Participation of All People in Environmental Issues (日本政府とNGO三団体による)”、“Role of Women in STEM in addressing Climate Change (UNESCOとWFE0による)”、“Civil Society Briefing”、“Inclusive, gender responsive and climate informed conflict prevention and peacebuilding: opportunities and lessons from UN field presences”の5つのイベントで、その中でも世界各国のSTEM教育を受けて専門分野のリーダーとして働く女性たちのプレゼンテーションが最も印象的であった。管理職である女性がいる職場ではその女性たちをロールモデルとして管理職を目指す女性が増えるのと同様に、STEM教育を受けた女性リーダーの存在は、気候変動やリスクマネジメントに備える分野において、すべての人々を取り残さない様に目を配り、今以上に万全な対策を施すための議論や行動ができるようになるということを改めて実感した。これはすべてのポストを女性が行えば

多くのイベントに参加し、多様な人々の意見を聞き、交流したいと思った。1人が参加することのできるイベントには限りがある（WebTV にアップされるイベントもあるので、それを試聴するとオンタイムではないが、追いかけて参加することもできる）が、今後もこの CSW により多くの人々が参加し、大きく歩みを進めていくきっかけになることを強く願っている。



- バーチャルであればもっと多くの会員の参加を募りたいと思いました。開催の時間帯が日本にとっては厳しく、特に日中仕事のある人は参加可能なイベントが限られてしまうのが残念です。見逃し配信もありますが、熱量がちがいますので、オンタイムで参加できるものがもっとあればいいですね。
- 前回は日本のイベント以外はほとんど参加できませんでした。今回、時差はありましたが、生活や仕事に支障の出ない範囲での参加ができ、少しは CSW を垣間見ることができました。現地での参加はなかなか難しいのですが、来年もオンラインで参加が叶うのであれば、この大きな会議やイベントにできるだけ参加し、学びを深めてアドボカシーにつなげたいです。もっと多くの日本の会員と参加できたらさらに嬉しいです。
- 昨年受けた刺激を今も覚えていて、熱源に近づきたい一心で、登録させていただきましたが、今回はライブのウェビナーやワークショップに自身の都合により参加できず、残念でした。見逃し配信されているものなどを見ようと思います。現地で行われる CSW には、いつか参加してみたいです。ずっと CSW への

●初めて参加しました。登録がうまくいかなかった時にもメンバーにサポートしてもらい、感謝しています。参加できてよかったです。特に日本のサイド・イベントは勉強もできましたし、いろいろなことを知ることができました。関係者の皆様の苦勞が偲ばれました。LINEの取り組みも非常に役立ちました。

●現地に行くことで感じる熱気はオンライン参加では感じられませんでした。日本にいながらにして気楽に参加できることは有り難いです。

15

第 20 回 CSW インターン募集

2023 年国連女性の地位委員会(CSW 67)
へ派遣する女性インターンを募集します

日本 BPW 連合会では、国際問題に関心を持つ若い女性を対象に、毎年ニューヨークの国連本部で開催される女性の地位委員会 (CSW) に派遣するインターンを募集しています。2004 年の第 1 回インターン派遣から今回で 20 回目となります。
(2021 年と 22 年はバーチャル開催)



募集目的 国際問題・国連問題・ジェンダーの問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う女性を支援する目的で行われるもので、国連本部及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

期 間 国連女性の地位委員会 (CSW) は、国連本部で開催されています。2023 年の第 67 回 CSW は 3 月 13 日から 24 日までの予定です。開催方式等は、今後 BPW のホームページでご案内します。CSW67 のテーマは「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のための革新および技術変革、そしてデジタル時代の教育」です。登録手続きや事前のイベント(直前にユースを対象としたプログラムが設定され、参加者や指定発言者の募集が公表される場合もあります)、BPW インターンの顔合わせなどの都合で、現地開催の場合には CSW 開始の前々日に到着するのが好ましく、滞在は 10 日以上を推奨しています。

- 7つの特典**
- 「パラレル・イベント」(NGO が主催するイベント) を企画・運営し、世界の NGO と交流できます。
 - CSW の会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べるができます。
 - 国際 BPW (IFBPW) 主催の各種活動(ワークショップ、交流会など)に参加して、各国の IFBPW メンバーと交流ができます (IFBPW との交流の有料部分は日本 BPW が一部負担)。
 - 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
 - 日本政府代表部がおこなう NGO 参加者を対象とした公式説明会に参加できます。
 - 世界各国の女性団体の参加者と交流できます。
 - 国際関係・ジェンダーの問題を専攻する学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ 20 歳～35 歳の女性、若干名。パラレル・イベントの企画・運営、事前勉強会への参加、関係各所への表敬訪問、ニューヨークでは日本政府国連代表部のブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方。帰国後は、報告書(日・英両言語で、活動写真含)を作成し日本 BPW 連合会に提出いただく他、BPW が企画するイベント(報告会・NWECC インターン報告・各地の BPW 活動)などに参加いただける方。また、今後ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加できる方。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は原則自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが、必ずご加入ください。また、NGO ブリーフィングのほか、有料イベントへの登録料も、原則各自負担になります。但し、BPW が行うイベント(交流会他)への参加費の一部は日本 BPW 連合会が負担します。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文で応募動機および国際問題・ジェンダーの問題・国連に関するあなたの意見を日本語(1000 字前後)および英語(500words 以内)で述べ、添付・送信してください。

応募・問合せ csw2023@bpw-japan.jp (日本 BPW 連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2022 年 9 月 10 日(土)

結果発表 2022 年 10 月 10 日(祝)

【応募メールへの必要記載事項】

応募メール本文または、添付ファイルに記載願います

氏名 (ふりがな)

住所 〒 /

連絡先 電話 /

メールアドレス

生年月日(西暦) 年 月 日生

所 属/大学(学部・専攻)又は職業

履歴 高校卒業以後の履歴(学歴・職歴等)

滞在可能期間(予定)

備考 応募にあたって、疑問点などあれば、お書き下さい。

【必要添付書類】

小論文「応募動機及び国際問題、または女性問題、」あるいは国連に関する意見

日本語で 1000 字前後、英語で 500words 以内

※小論文は日本語・英語の両方の論文を提出して下さい

(word あるいは text ファイルでメールに添付)

※選考にあたり、電話インタビューまたは面談などを行う場合があります。また選考後、BPW の事業主旨にそぐわない場合は取り消すこともあります。

その他 最新情報・募集要領・メールフォームは、下記 BPW のホームページにも掲載しますのでご参照ください
<https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>

☆ CSW は United Nations Commission on the Status of Women の略。1946 年、国連経済社会理事会の機能委員会の一つとして設置。年次会合は 3 週目の金曜日頃に合意結論が出て閉会する。





認定 NPO 法人日本 BPW 連合会
2022 年 5 月

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303
TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876
E-mail office@bpw-japan.jp
URL <http://www.bpw-japan.jp/>